

平成27年度 第2回小郡市総合教育会議 会議録

1. 日時

平成27年7月16日(木) 午前10時00分開会 午前11時28分閉会

2. 場所

小郡市役所西別館3階会議室

3. 出席者

市長	平安正知
教育委員長	安部ミチ子
教育委員	田籠弘幸
教育委員	林ヒデヨ
教育委員	山田英昭
教育長	清武輝

4. 欠席者

なし

5. 会議に出席した事務局職員

(市長部局2名)

企画課長	熊丸直樹
企画課企画政策係長	天野正治

(教育委員会事務局11名)

教育部長	佐藤秀行
教務課長	山下博文
人権・同和教育課長	新木秀典
生涯学習課長	有馬義明
スポーツ振興課長	山下孝浩
文化財課長	片岡宏二
学校給食課長	藤本和彦
図書館長	永利和則
教務課指導主事	清水満
教務課指導主事	秋吉留美子
教務課教務係長	白石和章

6. 協議・調整事項及び議事の内容

(1) 教育に関する大綱素案について

① 総論

(市長) 少子高齢化社会、情報化社会、グローバル化社会の中、時代が大きく変化している。そうした時代の変化に即応するため、また、夢や希望を持ち続け自己実現を図りながら、社会に貢献していくことが出来るような教育大綱を作りたいと思います。

子どもから高齢者まで、生涯にわたって教育を続ける場面は、家庭教育、学校教育、社会教育があるが、学問・日本や小郡市の歴史・古くから伝わる伝統・文化・芸術・ふるさとの郷土・人権・読書・スポーツに学んでいきたい。

どんな時代でも生き抜いていけるよう「自立」すること、小郡市では協働のまちづくりを進めているが、ともに支え合い、学び合えるよう「協働」すること、教育を通じて高い目標に向かって、進んでいくよう、また、人間力を高めていくよう「向上」することを観点に進めていきたいと思います。

このように学ぶことにより、小郡市のひとが、まちが、未来がそれぞれ繋がっていくものと思います。

生活の質の向上を高めていく中で、まちの魅力については4つの指標があり、1つ目は住環境、2つ目は健康・医療、3つ目は安全・安心、そして4つ目は教育であると思っています。

教育力が高いところは、まちの大きな魅力であり、ひとはそこに移り住みたいと思います。

今、地方創生や定住促進を国から言われていますが、教育で魅力のあるまちをつくっていくことは、まちの活性化に繋がり、高い教育力で地域に貢献でき、多くのひとが移り住んで来るものと思います。

そこで「ほんもの教育力おごおり」をキーワードに進めて行きたいと思っています。

指導者がほんもので質の高い教育力を発揮することはもちろんであるが、小郡で育つ子どもや小郡に住む人達がほんもの教育を感じ取り、ほんもの教育を支援することによって、小郡の活性化や、より魅力あるふるさとづくりに繋がると思います。

グローバル化社会の中で、日本人は世界で活躍する意識が低いと言われているが、小郡の子ども達を世界へ飛躍できるような、日本を引っ張っていけるような人材を生み出せるよう「ほんもの教育力おごおり」を作っていきたいと思います。

意見・質問等

(委員) 国際化の社会の中で、小・中学校の教育において、日本や小郡の伝統文化の素養を身に着けるような教育を進めたいと思います。

(委員) 教育は人口減少社会の中、定住促進等の地方創生の一躍を担っている。教育委員会には学校教育、社会教育等で7課あり、色々な事業を行っているが、そういった視点も踏まえて取り組んで、また、市内だけでなく市外にも小郡の特色ある教育を売りとして発信していきたい。

② 各論

(教育部各課長) 説明

意見・質問等

(委員) 学校教育の特別支援教育の推進のための支援については、特別支援教育支援員が配置されており、個に応じたとても丁寧な取り組みがなされているので、内容を明記してほしい。

(委員) 青少年教育のジュニアリーダー育成については、今後も引き続き取り組んでいただきたい。

(委員) 「家読」の推進については、1歳頃から両親による読み聞かせが重要だと思います。

(委員) 図書館の「読書のまちづくり日本一」の取り組みについては、小郡市民としても誇りに思えるところなので、是非取り組んでいただきたい。

(2) その他

(委員) 公立幼稚園の今後のあり方については、保育所・保育園・私立幼稚園に対しても、これまで果たして来た役割を考慮すると、幼児が減少傾向にあるものの、是非、今後も教育力等の良さを生かして行けるよう取り組みを進めていただきたい。

(委員) 公立幼稚園の今後のあり方については、先生方は一生懸命に保育やPRに頑張っているが、限界があるので、そろそろ方向性を出す必要があるのではないか。

(市長) 公立幼稚園の今後のあり方については、これから幼児施設審議会の中で、色々な観点で審議されますので、その答申を尊重しながら、進めていきたいと思ひます。

(委員) 中学校の部活について、学校外のスポーツ活動に行つて中学校の部活動に入らない場合があり、小規模校では部活動の種類が減つてきている。強制は出来ないと思ひますが、何か取組めないか。

(委員) 中学校の部活で得られるものと学校外のスポーツ活動で得られるものがそれぞれあると思ひるので、子どもと保護者とで話し合つて、部活動で行う部分と、学校外のスポーツで行う部分とで親子の共通理解が必要だと思ひます。

(委員) 立石校区は小・中連携に取り組んでいるが、先を見据えた話で、難しいかもしれないが、小・中一貫校に取り組んでもらえたらと思ひます。

(市長) 小・中一貫校については、メリットとデメリットがあるので、色々な観点から検討することが必要ではないかと思ひています。

(委員) 文化財については、古民家などの油屋の次の取組みをお願いしたい。

(委員) スポーツについては、市の運動会で参加地域が固定化して、参加できない地域があると思ひるので、対策を検討してほしい。

小郡市総合教育会議設置要綱第7条第2項の規定により署名する。

平成27年 月 日

市 長

教育委員長